

■学校経営のポイント

適切な学習評価の実施に向けて

小島 宏

年度末は、本年度のまとめと次年度の諸準備などで多忙を極める時期である。その中でも重要度の高い学習評価の進め方について考える。

学習評価の役割の再確認

授業中の学習活動やテスト、指導要録や通知表などにおける学習評価の機能について再確認すると、次のように整理できる。

子ども…自分の学習の成果と課題の確認

教師…①子どもの学習の成果と問題点の把握

②自身の指導(授業)の効果と問題点の把握

以上の結果を子どもや教師だけの責任とせず、学校評価の結果も踏まえて、指導計画や評価計画などの改善につなげていくことが重要である。

答申が提起していること

中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(令和3年1月26日)では、子ども一人一人の学びを最大限に引き出す「教師としての役割を果たす」ことを求めている。

○授業改善に当たって、子どもに学習の進め方(学習計画、学習方法、自己評価等)を自ら調整する力を身に付けさせる。

○学校以外の場での学習の習慣や進め方、主体的に学習に取り組む態度も視野において指導する。

○探究心を持ち自律的・継続的に学び続け、子どもの学びを引き出す教師としての役割を果たす。

○指導と評価と支援の一体化を図り、子どもの主体的な学びを支援する伴走者の役割を果たす。

根拠を説明できる学習評価

学習評価の結果には、保護者も子どもも関心が高い。特に、自分の想定とのずれには敏感である。

学習評価の根拠を明確に説明できることが重要であり、そのためには次のようなことが大切である。

- 作品やテスト結果など評価資料の蓄積
- eポートフォリオ、学習履歴(スタディ・ログ)などの作成と利活用
- 学校の評価計画と評価規準に基づく評価・評定

多様な子どもへの対応

個々の子どもの個性・能力などを捉え、多様性に応じた指導の結果としての学習評価でありたい。

特に、日本語指導が必要な児童生徒、障害のある児童生徒、いじめ、不登校、貧困など悩みを抱えた児童生徒などの指導・対応と学習評価については、温もりのあるきめ細やかな配慮が必要である。

学習評価における配慮点

学習評価を進めるに当たっては、結果だけでなく子どもの学習改善とともに教師の指導の改善につながるものにしていくことが重要である。

そこで、学習の結果としての評価に加えて、良さや進歩や努力を認める評価、そして注文を付ける(改善を求める)評価も必要となる。その際、子どもの自己評価を活用し、メタ認知能力を刺激することも考えられる。また、コロナ禍の影響にも配慮したい。

次年度に向けた学習評価計画

3学期や学年末の学習評価にとどめず、子どもたちの良い点や頑張りとともに、例えば問題発見・解決能力や学習意欲が低いなどの諸課題も捉え、原因を明確にして、カリキュラム・マネジメントや学習評価計画に反映させることが肝要である。

そして、評価規準の見直しとそれに基づいた学習評価の実施などによって、学習評価に伴いがちな曖昧さを少しでも払拭していくよう努めたい。さらに、各教科等の指導計画の見直し、ICTを導入した授業の開発・改善・工夫にもつなげたい。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

- ネットの現実を知らずに子どもの「今」は分からない! 《3月13日発売 最新刊!》
教師が知らない「子どものスマホ・SNS」新常識

藤川大祐(千葉大学教授)【著】 A5判/144頁/定価1,980円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

